

の裏で人材確保に悩む宿泊施設は多い。雇用環境が改善し採用は一段と難しくなっているが、人材を確保できないれば追い風に乘ることはできない。全国の温泉地は様々な工夫を凝らしている。

10月下旬に厚生労働省が発表した有効求人倍率は1・38と、1991年8月以来の高水準だった。これを職業別に見ると「旅館・ホテル・乗物接客員」が3・53と全体の有効求人倍率を大きく上回る。「宿泊業、飲食サービス業」の新規求人倍率も、このところ大幅に増えており、温泉地の人手不足感は強い。

女性依存度高く

北海道東部にある阿寒湖温泉のビルに、この地域で初の保育園が12月にもオープンする。道内でもリゾートホテルを展開する鶴雅グループ(釧路市)の認可外保育園施設「コロポックル保育園」だ。

温泉地は女性従業者への依存度が高く、保育園施設の充実が人材確保の力になる。同社は所有するビルの空き部屋を約5千万円かけて改装、運営は釧路市内の会社が担当。定員は19人で9人までは地域の手もを受け入れる。鶴雅ホテルディングスの富樫一道管理部長は「子どもを抱える男性従業者の奥さんも戦力になる道が開ける」と期待している。

道後温泉(松山市)でも子育てしながら働く女性を考慮し、旅館協同組合による託児所設置の検討が始まっているほか、草津温泉を抱える群馬県草津町は、保育所の受け入れ時間を午後7時まで1時間延ばした。「旅館は夕方から忙しくなることが多いので、時間延長

訪日客増に沸くのにも人手不足

温泉で働きませんか?

の要望が強かった」(住)P全体の従業者は約2000人だが寮の部屋数は900人前年度より12日増やし、今年度もさらに10日増やす予定だ。採用に知恵を絞る温泉地も多い。有馬温泉(神奈川県)では、兵庫県立男爵ホテルの3年後の離職状況を調べたところ、少ない。とにかく人材を集めたいと思いを整備してきた」と話す。

「宿泊業、飲食サービス業」は50・5%だった。全産業平均が31・9%なので定着率向上へ向け待遇改善は急務といえる。三重県鳥羽市で温泉旅館などを運営するサン浦島グループは寮の充実に力を入れている。グループ

保育所や寮整備 見学ツアーも



「高校生ホテル」では3年生20人がホテル業務を切り盛りした(静岡県熱海市)

とタメか)。見学に先立つ座談会では、参加者が女将や支配人に質問を投げかけた。10月には、もてなしの力を磨くセミナーも開催。ツアーとセミナー両方の参加者の中には「有馬での勤務に応募した人もいる」(同センター)という。

草津温泉は観光客が増加傾向にある一方、草津町の人口は約6000人と10年前に比べ13%減少し、地元での採用が難しくなっている。そこで草津温泉観光協会は9月、旅館などで働く4人各地で続いている。短期的な対応策は生産性向上と外国人労働者の活用だ。定休日を増やすとともに、1人で複数の仕事をできるような体制を整える。特区などで外国人が活躍しやすい環境を整える。高まる戦略も必要だ。

別府のホテル 留学生がお助け

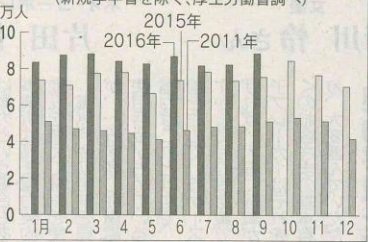
な人手不足だ。他の地域と違うのが立命館アジア太平洋大学(APU)や別府大学など海外留学生の存在だ。大分県の人口10万人あたり留学生数は2015年5月時点で288・6人と全国首位。「留学生はなくてはならない存在」(杉乃井ホテル&リゾート)になっている。

APUの場合、入学1年目の留学生は全員がキャンパス内の寮に入り、日本語が話せるようになる2年目から市街に住む。ホテル・旅館は従業員が減る夕方以降に働いてくれる留学生は歓迎だ。英語だけでなく中国・韓国・タイなど母国語も話せるので、外国人観光客への対応にも力を発揮。別府で最大の杉乃井ホテルは毎月平均300人のアルバイトを雇用しており、半分が留学生という。



有馬温泉で9月に行われた旅館やホテル勤務に関心がある女性を対象にした見学ツアー(神戸市)

宿泊業・飲食サービス業の新規求人状況



温泉旅館の経営に詳しい井門隆夫(大准教授)は「人手不足は旅館の最大の課題だ。宿泊客を受け入れたとしても人手不足に対応できない事例が

静岡県熱海市の旅館「ニューとみよし」は11月8・9日、熱海高校3年生20人が運営する「高校生ホテル」になった。ホテル業務を切り盛りした。熱海高は1学年約100人で観光ビジネスコースもあるが、地元観光客に就職するのはわずか数人だ。高校生ホテルを企画した小見山秀彦教諭は「熱海の発展には地元で根付く人材育成が不可欠」と考え本格的な実習を探り入れた。来年以降は近隣旅館の参加も期待しているという。